

平成30年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業概要(横手市)

1 市の概要(人口 91,022 人)※平成30年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(平成30年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4園	4園	0園	30か所	0園	0園	17校

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 各就学前施設において実施している、特徴のある保育に配慮した支援のあり方についての検討が必要。 (2) 就学前教育・保育施設と小学校との連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。 (3) 小学校・就学前施設教職員の双方における子どもの学びの理解が不十分。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
教育・保育アドバイザーを配置することにより、教育・保育の質を更に向上させていく。 また、幼小連携協議会を設置する等により、就学前教育・保育施設から小学校への円滑な接続に向けた環境を整える。	
主な内容(3年間)	
(1) 指導・助言体制の構築 ○ 教育・保育アドバイザーの配置による園内研修での指導・助言の実施 ○ (仮)横手市幼小連携協議会設立 (2) 課題に応じた研修会等の実施 ○ 小学校との接続を見通した教育・保育課程の作成への意識付け ○ 幼児期の終わりまで育ってほしい姿を踏まえた指導計画立案や環境構成の理解に向けた取組 ○ 小学校への円滑な接続に向けた幼保小教職員間の相互理解のための取組 (3) 研究の推進 ○ 沼館保育園をモデル園とした園内研修の充実 ○ 接続期における指導計画の相互理解 (4) 成果の発信・取組の普及 ○ モデル園の公開保育やフォーラム等での成果の発信 ○ 情報紙の作成と発信	
年度別重点	
平成28年度	・幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿のイメージの明確化、それを活かした保育実践
平成29年度	・教育・保育アドバイザーを活用した就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との円滑な接続にむけた相互理解のための取組の継続
平成30年度	・教育・保育アドバイザーの活用による、保育力向上のための園内研修の充実に向けた支援 ・双方の接続期のカリキュラムのつながりの理解を深めるとともに、円滑な接続にむけた体制の構築

4 平成30年度の具体

目的

保育者の自己研鑽や意識改革に向け、教育・保育アドバイザーによる多様な研修方法を通して保育力の向上を図る。

就学前施設と小学校双方の子どもの育ちと学びの理解促進を図るとともに、円滑な接続のための事業継続を見据えた体制を構築する。

実施内容

(1) 教育・保育アドバイザーの配置（施設に対する指導・助言体制の構築）

教育委員会と市長部局にそれぞれ 1 名を配置。これまで教育・保育アドバイザーが習得した知識・スキルを活かし、多様な研修を実施する。

◇アドバイザーに関する具体的な目標

①アドバイザーの配置人数	②主な経歴	③主な業務内容
教育・保育アドバイザー2名	<ul style="list-style-type: none"> 元公立小学校長 元公立保育所長 	園訪問による指導、研修会での指導及び企画・運営、幼小接続に関する小学校等との調整、家庭教育支援、広報紙の発行
④派遣対象施設／地域		⑤派遣期間
幼稚園（私立）、保育所（市立・私立）、小学校（市立）／横手市		平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月
⑥派遣目標 計 51 施設／全 51 施設 303 回		
回数	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園：私立 4 園（29 回） 保育園：公立 8 園（58 回）、私立 22 園（178 回） 小学校：17 校（38 回） 	
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、15 園（40 回）） 公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、2 園（8 回）） 状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、34 園（98 回）） 周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、34 園 17 校（208 回）） 県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、3 園（3 回）） 幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、4 園 6 校（18 回）） 	
理由	園内研修支援については、実施への理解推進及び実績が増加したことから、平成 29 年度の 2.5 倍の施設数と回数を目標とする。同時に、これまでの訪問により構築してきた各施設との信頼関係をもって、園内研修実施とアドバイザー活用増加へとつなげていくため、平成 29 年度以上に各施設の状況把握や周知活動によるこまめな施設訪問を実施していく。また、県指導主事への同行訪問数を減らし、習得した研修方法を施設からの要請訪問で実践していく。	
⑦ 派遣体制		
<ul style="list-style-type: none"> アドバイザーが単独で訪問 複数のアドバイザーによるチーム派遣 県指導主事等との同行 		

(2) 研究推進（教育・保育の更なる質の向上に向けた取組）

○小学校（雄物川小学校）を核とした、学区内保育所（沼館保育園、雄物川保育園）保育の同時公開と保小接続の研修

○園を越えた学び合い（複数園での保育のミニ公開）

(3) 研修会の実施（保育実践力向上研修会）

①H30.6.16 [会場] 横手市条里南庁舎

[対象] 市内就学前施設教職員

[内容] 改定保育所保育指針等の全体像と実践のあり方について理解を深める。

講師：聖園学園短期大学准教授 蛭田 一美 氏

②H30.10.18 [会場] 雄物川コミュニティセンター、沼館保育園、雄物川保育園
 [対象] 市内就学前施設教職員、市内小学校教職員
 [内容] 公開保育及び講話・演習を通して、保育士等の保育力の向上を図るとともに、小学校教諭等の就学前施設での子どもの育ちと学びについての理解を深める。

午前：公開保育（沼館保育園、雄物川保育園）

午後：講話と演習

講師：南教育事務所指導主事 井上 英樹 氏

③H30.11.6 [会場] 雄物川コミュニティセンター、雄物川小学校

[対象] 市内就学前施設教職員、市内小学校教職員

[内容] 接続期の子どもの育ちを共有し学びのつながりの理解を深めるとともに、就学前教育保育と学校教育との円滑な接続のあり方について、協議・演習を通して共に考える。

午前：1年生と年長児の授業交流公開（雄物川小学校）

午後：講話と演習

講師：南教育事務所指導主事 畑 克弘 氏

(4) 小学校と就学前施設の円滑な接続に向けた取組

○職員の体験事業の継続（保育士等による一日学校体験、小学校教職員による一日保育体験）

○交流事業における年長児の給食体験の推奨

○小学校単位での接続期カリキュラム検討会の推奨

○幼保小連携充実のための（仮）横手市幼小連携協議会設立に向けた取組の継続

・準備委員会を設立し、平成31年度当初からの運用が可能となるよう、構成委員、平成31年度実施事業等を決定して体制を構築する。

(5) 成果の発信・取組の普及

○モデル園等による保育の公開

○教育・保育アドバイザー作成による、情報紙「よこてのめんこ」発行の継続（6回/年）

○「平成30年度わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」での取組内容及び成果の発信

検証・評価計画

	内容	目標となる指標	時期	評価方法
1	教育・保育アドバイザーの配置	就学前施設の園内研修による課題解決とともに、改善意欲の持続に結びつくよう指導助言を行う。	年度末	訪問記録 活動記録 アンケート
2	保育実践力向上研修会（公開保育含む）	公開保育と専門性の向上に向けた研修を通して、保育の実践のあり方についての理解を深める。	6月 10月	参加人数 感想(アンケート)
3	保育実践力向上研修会（授業交流の公開）	学びのつながりを理解し、小学校単位での双方の接続期のカリキュラムを検討する取組の実施につなげる。	11月	参加人数 感想(アンケート)
4	職員の体験事業	小学校と就学前施設における子どもの育ちや学びの差異について教職員等の理解が深まる。	5～6月 8月	参加人数 報告書
5	小学校単位の連携活動	相互理解への意識が高まり、連携体制を整備して交流活動の充実を図る施設が増加する。	年度末	実施施設数 交流内容